

株式会社クエストリー 代表取締役 伊部 智信(Ibe Tomonobu)氏

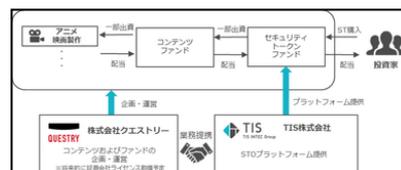


株式会社クエストリーは、米国ブロックチェーン企業Ava Labs、みずほ証券、システム会社TISとの業務提携など、外部企業との連携を積極的に進めています。こうした取り組みを推進する上で、東京都からの補助金および支援は、プロジェクトの信頼性を高め、より円滑な進行を後押しする重要な要素となりました。

1. 「ブロックチェーン×アニメ映画」クエストリーが挑む新たな資金調達モデル

アニメ映画の制作資金を集める新たな手法として、株式会社クエストリーがブロックチェーンを活用した資金調達事業に取り組んでいます。この取り組みの中心にあるのは、「セキュリティ・トークン」と呼ばれるデジタル証券を活用したファンドのトークン化です。クエストリーは、コンテンツ・ファンドを裏付け資産としたデジタル証券をAva Labsが開発するブロックチェーン上で発行し、投資家に販売する計画を進めています。これにより、アニメ映画制作のための資金を調達するとともに、投資家にとっても透明性の高い資産運用の機会を提供することを目指しています。

また、この事業を推進するため、クエストリーはTIS株式会社と業務提携契約を締結しました。TISが提供する「STLINK」というプラットフォームを活用し、2024年度内のセキュリティトークン発行を計画しています。



2. アニメ業界の課題とグローバル展開への可能性

日本のアニメ市場は拡大を続けており、特に海外では高い需要が確認され、さらなる成長が期待されています。しかし供給サイドでは、制作会社の低収益構造やクリエイターの労働環境といった課題が依然として残り、業界の持続可能性が問われています。

かつてNFTがアニメ業界の新たな収益源として注目されましたが、一次的なブームにとどまり、継続的な資金調達手段にはなりません。これに対し、セキュリティ・トークンを活用した資金調達は、投資家が金融の枠組みでプロジェクトを支援できる仕組みを提供し、より透明性の高い資金調達を実現します。これにより、制作会社やクリエイターへの利益還元が強化され、安定した制作環境を築くことを目指しています。

また、個人投資家や海外ファンが直接関与できる仕組みは、日本発のアニメが世界市場を狙う上で重要なステップとなります。クエストリーは、こうした新たな資金調達モデルを確立し、日本のコンテンツ産業の発展とグローバル市場への進出を後押ししていきたいと考えています。



3. 「好き」に投資するという選択——納得感のある投資のかたち

債券や株、インデックス投資などについてはよく知られていますが、突き詰めて考えると、個人の投資は「自分が好きなものに投資する」のが一番ではないかと思っています。もちろん、ドル円でも米国株でも、NISAを使った投資信託でも何でも良いのですが、「必ず儲かる」「必ず損をする」ものは存在しません。

重要なのは、どんな商品であれ、自分が愛着を持てるかどうかです。そうした要素があることで、投資の楽しさや納得感が増します。しかし、好きなものに投資できる機会は意外と少ないのが現状です。

もちろん、全資産をそうした投資に振り向けるのは避けるべきですが、一部の運用資金を「本当に好きなもの」に投資できる仕組みがあれば、投資の選択肢は広がります。例えば、何の愛着もないインデックスに投資し、将来50%下落すれば、多くの人が悔しい気持ちになるでしょう。しかし、好きなものに投資していれば、そのワクワク感だけでなく、価値が上がろうか下がろうか、「納得感のある投資経験」になるかもしれません。そうした投資の幅を広げられる環境を作っていきたい——その想いを大切にしています。

【企業概要】

本社 : 東京都千代田区内神田1-5-4 加藤ビル2F
 資本金 : 151,000,000 JPY (資本準備金を含む)
 事業内容 : Planning and management of contents business
 Designing contents finance
 Security token business
 加盟協会 : Japan Security Token Association
 URL : <https://www.questry.co.jp/>



QUESTRY